

海洋生物資源学部門 佐藤秀一教授： NEDO が公募する「微細藻類基盤技術開発」に採択

東京海洋大学海洋生物資源学部門 佐藤秀一教授は、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が公募した「バイオジェット燃料生産技術開発事業/微細藻類基盤技術開発/微細藻バイオマスのカスケード利用に基づくバイオジェット燃料次世代事業モデルの実証研究」に株式会社ユーグレナ等と共同で応募し、採択されました。バイオジェット燃料の原料でもあり、カーボンリサイクル技術の一つである微細藻類について、コストダウンも含めた安定大量生産技術の確立のために培養に適したインドネシアでパイロットスケールの実証事業を行い、コストダウン上重要な、微細藻類の油脂および残渣の有効利用に係る技術の確立も目指します。東京海洋大学は株式会社ユーグレナからの再委託を受け、インドネシアで生産された微細藻類の油脂抽出残渣を対象に、養魚用飼料として有効利用する研究開発を日本国内研究拠点にて実施いたします。

- 事業期間：2020 年度～2024 年度（2022 年度まで委託事業、2023 年度以降は助成事業予定）
- 共同委託者名：株式会社ユーグレナ、株式会社デンソー、伊藤忠商事株式会社、三菱ケミカル株式会社
- 再委託者名：三菱化工機株式会社、ガジャ・マダ大学、中央大学、東京海洋大学^{※1}

※1 三菱化工機株式会社、東京海洋大学、ガジャ・マダ大学は株式会社ユーグレナからの再委託
中央大学は三菱ケミカル株式会社からの再委託

微細藻類には養魚飼料の原料として必要な種々の栄養素が含まれているため、魚粉代替原料として有効性が検討されています。しかしながら、経済性の面から積極的な利用がなされていないのが現状です。東京海洋大学の研究グループでは、大量培養した微細藻類の残渣ミールを用い、養魚飼料原料としての利用方法の技術開発ならびに有効利用・実用化に向けた実証試験を実施します。

<実施体制図>

